

弥彦村社教だより

平成30年11月20日 NO. 12

弥彦村社会教育委員の会

《7人のサムライ糸魚川へ》

弥彦村発表テーマ「地域活性化のために立ち上がった7人のサ・ム・ラ・イ」

～交流会・PR動画・社教だよりを通して～

平成30年10月17日（水）に糸魚川市ふれあいセンター「ビーチホールまがたま」にて行われた第18回 新潟県社会教育研究大会 糸魚川大会で、弥彦村社会教育委員の5年間の活動を発表してきました。社会教育委員（サムライ）7名と役場教育課職員2名が発表に臨みました。当日の分科会発表は、他に新発田市（社会教育委員と社会教育行政）と刈羽村（社会教育委員とコミュニティスクール）の3市村でしたが、弥彦村が一番多くの参加がありました。



＜分科会発表の様子＞

分科会の中で、多くの質問が出され、グループ協議・発表が積極的になされたことは、他市町村の社会教育委員から興味、関心を持って発表を聞いてもらえた成果だと思っています。そして、私達の活動、取り組みに共感し、今後の活動へのヒントを他市町村の社会教育委員と互いに、分かち合えた発表になったと感じています。今年度1年間は、この大会の準備もあり、打ち合わせや活動に時間を費やしてきましたが、役場職員（事務局）の手厚い支援もあり、発表にたどり着けました。当日は弥彦村教育委員長が糸魚川まで応援に駆けつけて下さり、大変心強かったです。また、私達の活動に賛同し、ご協力いただいている弥彦村の皆様に厚く御礼申し上げます。

以下、分科会での発表内容と質疑応答、グループ協議、助言者のまとめです。

1 発表要旨

(1) はじめに

① 弥彦村の概要

- ・ 村の紹介
- ・ 平成25年度までの弥彦村の社会教育委員の状況
- ・ 社会教育委員の存在を村民は全く知らない

(2) 社会教育委員の活動の歩み

① 平成26年度の取り組み～新たなスタート～

- ・ 各研修会への参加、委員の会5回開催、会議運営規則の作成

② 平成27年度の取り組み～地域づくり交流会でネットワークづくり～

- ・ 第1回地域づくり交流会の開催
- ・ 社教だよりの発行

③ 平成28年度の取り組み～若者を集めた事業を展開～

- ・ 社会教育委員を7人体制に、社教だよりに予算付けなどを村へ提言

- ・ 第2回地域づくり交流会と若彦会（21歳～45歳が参加）の開催
- ④ 平成29年度の取り組み～教育委員会とともに～
 - ・ 第3回地域づくり交流会の開催
 - ・ 教育フォーラム開催に協力
 - ・ 教育委員・社会教育委員懇談会（30年度の方針等）
- ⑤ 平成30年度の取り組み～交流会が実を結ぶ～
 - ・ 過去の交流会で出された意見をもとにPR動画コンクールを実施
 - ・ 先進地見学 長岡市の子育て支援施設2か所を訪問
 - ・ 第4回地域づくり交流会の開催
 - ・ 県社会教育研究大会発表

(3) 5年間の活動のまとめ

- ① 成果 社会教育委員の活動が活発化 地域の活動に関心をつ住民が増
地域活性化に協力してくれる団体・個人が増
- ② 課題 社会教育委員の周知の不足 地域の声をさらに実践に移す
社会教育委員のスムーズな引継ぎ

2 協議の概要

(1) 質疑応答（抜粋）

Q：H27から交流会を続け、活動が活発化しているようだが、最初の参加者はどのように集めたのか。

A：手作りチラシとポスターを掲示などしたが、社会教育委員の認知度、交流会の目的の理解の不足から参加は少なく、社会教育委員がそれぞれ参加者を集めた。

Q：交流会の会場、懇親会の会費、参加者の感想は。

A：1回目は文化会館で、2回目以降は中学校の食堂で行っている。懇親会は希望者のみ別会場にて会費4千円で行っている。参加者は参加して良かったと肯定的だが、日程などの関係で次回参加につながっていない。今でも人集めは苦勞しているが社会教育委員のネットワークで人の輪が広がっているのを感じる。

Q：PR動画コンクールの入賞作品はどう活用していくのか。外部へ発信しないのか。

A：今後、弥彦村のおもてなし広場の食堂で流すなど、観光協会のPRに役立ててもらおう予定。YouTubeで# WE LOVE YAHIKOで検索すると作品を見られる。

Q：仕事をしている中で会議の持ち方はどうしているのか。

A：委員のうち1名は無職だが、委員長が年度初めに会議日程を組み、委員の了解を得て、中学校の校長室で1時間程度の会議をしている。

Q：社教だよりを出すにも予算が必要だと思うが、行政の予算立て、担当の協力体制はどういう感じか。

A：社教だよりはカラー印刷の予算立てをしてもらっている。担当職員が一生懸命対応してくれている。

Q：委員の任期と選出方法と委員の意思をどう繋いでいるのか。

A：7名のうち最初からやっているのは2名で任期は2年、再任は妨げない。選出方法は小さい村ということもあり、協力してくれそうな人に声をかけてお願いしている。今は若い世代3名を委員に加え、一層の活性化を図っている。

Q：予算立てはどうなっているのか。

A：印刷物に予算をつけてもらっているが、私達は交流会などの自分達で話し合うことで村を盛り上げようという気持ちで活動しているので、お金はかかっていない。

(2) 意見交換（グループ協議）

協議題「あなたが弥彦村の社会教育委員なら、今後何をしますか？」

※（良）良い点、（改）改善点を協議してもらった（発表した班のみ記載）

1班（良）PR動画コンクールも含め地域活性化に繋がる活動をしている点。メンバー構成。（男女比、年齢構成）（改）メンバーを他の団体からも選出すべき。委員長の後継者育成。若彦会の継続。交流会での意見の具現化。教育委員との協働。

2班（良）会議の参加しやすい時間設定。交流会終了後、懇親会がある点。（改）PR動画の活用。行政との連携、役割分担をはっきりさせる。村民の反応を知る方法は？

3班（良）委員の仲がいい。交流会で村民の声を集約し村への提言に入れている。（改）交流会参加者をマンネリ化させないように。委員長退任後の組織づくり。

5班（良）少人数で委員のまとまりがある点。予算をかけないところ。会則の設定。行政との協力体制。（改）若彦会を継続した方がいい。多世代の意見交換。先進地見学をする。



＜分科会の発表の様子＞

3 助言者のまとめ（弥彦村教育委員会教育課長より）

＜社会教育委員の職務の確認＞

研究主題「まちづくりにおける社会教育委員の役割」、大会趣旨に沿って社会教育の定義・職務について・・・社会教育は学校の教育課程以外で行われる教育すべてを指し、とても広い意味を持つ。弥彦村の会則には会議の内容（第7条）に特徴がある。

＜弥彦村の発表から見てきた社会教育委員のあり方＞

ネットワークづくりの大切さ・・・弥彦村に関して言えばPR動画コンクールの実行委員は色々な分野の人を委員のネットワークを通じて14名で構成している。交流会は継続していることでネットワークの構築に役立っている。

リーダーシップ・・・PR動画コンクールにしても、交流会についてもリーダーは育っていると感じている。各委員が得意分野で自ら手をあげて活動していかなければいけないと思う。

＜まとめ＞

小さい村だからできる部分もあるが、できない部分もある。それぞれの市町村の実情を踏まえて今後みなさんから活動して行ってほしいと願っている。

（文責 本間）

《弥彦PR動画コンクール》



＜実行委員会の様子＞

を重ね、以前に社会教育委員として活動していただいていた村越隆典さんの奥様の協力を得てポスターを作成し、第1回弥彦PR動画コンクールを開催する事ができました。

平成30年8月1日～9月30日までの2ヶ月間を応募期間とし、ポスターを用いて実行委員が各所にPR動画制作を呼びかけ走り回りました。しかし、最初は、なかなか応募作品が集まらずに苦戦しました。それでも、様々なご縁から、上越市の方や東京の方まで、ご応募いただき、最終的には13作品がエントリーしました。どの作品も、とても素敵で、甲乙つけ難い作品だったのですが、実行委員の投票により、各賞が決まりました。

平成30年10月28日にヤホールにて表彰式を行いました。



＜入賞者の皆さん＞

★ 社会教育委員賞～弥彦っことママの会様・子供が笑顔になれる場所弥彦

★ 教育長賞～堀陽子様・2018弥彦の美女と美所

★ 観光協会賞～高橋樹様・弥彦村ぷらり旅～夏のある日～

忙しい中、受賞者の方々にお集まりいただき、感謝しています。今回のPR動画コンクールの趣旨にご賛同し、ご応募いただけたことが、実行委員会にとって、何よりも嬉しい収穫となりました。 (文責 那須)

※ 入賞作品はYouTubeの「弥彦PR動画」で検索して見られます。

委員長 堀 隆行 (弥彦中学校長)

副委員長 平井 茂人 (村山)

委員 本多 隆峰 (麓一区)

委員 柏原 路子 (麓二区)

委員 丸山 浩 (弥彦)

委員 本間 美幸 (弥彦)

委員 那須 裕美子 (川崎)

事務局 本多 正 (教育課)

※ ご意見のある方は、近くの委員、もしくは中学校、教育委員会事務局にお電話ください。(中学校94-2101 事務局94-1021)